060202-000-0

71-277

齒牙摂生法一斑

瓜生　源太郎／著

M28

CBL-0034

71
277

瓜生源太郎 述

（非賣品）

# 齒牙攝生法 一斑

完

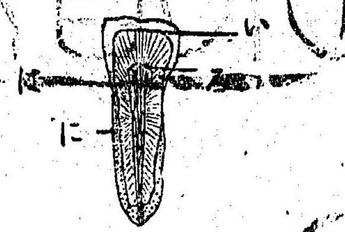
明治二拾八年一月刊行

# 齒牙攝生法一斑目次摘錄


總論……一
乳齒發生困難……九
乳齒發生順序……一一
乳兒撫育の注意……一二
成齒發生の順序……一九
智齒の難生……二一
齒牙世紀を追ふて軟弱となり顎骨との發育不平均を生する理由……二三
齒牙の造構……二六
齲齒統計表……二八
齲齒……三〇
充塡材料……三三
齒牙の脫落……三五
義齒の功用……三六
齒石……三六
湿齒の害毒……三八
齒磨粉……三九
齒刷子使用法……四〇
小楊子の効用……四一


＊　＊　＊

## 齒牙縱斷面




い　琺瑯質
ろ　象牙質
は　齒髓
に　白堊質

71-277

# 齒牙攝生法一班

瓜生源太郎述

抑々泰西醫學の初めて本邦に入るや日に月に駸々乎として長足の進歩をなし現今に至ては泰西諸邦と相並立し其勢實に一瞬千里益々進歩發達して其底止する所を知らず名望卓識ある國手輩出し斯學を攻究する者亦充棟汗牛も啻ならず是に於て乎醫學の大斗として全世界に錚々たる彼獨乙國に於ても日本醫學として贊稱するに至れりと雖も實に國民の幸福にして我醫學界の名譽たるのみならず即ち大日本帝國の面目ならすや嗚呼醫は

人民の救世主なり宜しく三呼其進歩發達を賀せざるべからざると共に醫たるもの亦小成に安んすべけんや。

夫れ國家の富源金穴たる責任者を以て自ら任する農商工にして今や益々事務繁多修羅場を現し來るべき社會に立て其生活を得んとする者。或は螢雪の苦學以て新日本繼續者たるの重任を負て厥起せんとする多望有爲の士。或は國家の爲め身を軍籍に投し一朝事あらば三尺の氷刀を揮て身彈丸の街を侵し屍岳を蹂躙し血川を一躍し日章の錦旗をして全世界に飜々たらしめん事を希ふ者。其何れを問はす皆之に依て國家の貧富强弱ある所以は豈敢て多辨を待たんや然るに身躰羸弱而も多病にして以て其業務に堪ざるを天に嘆し又如何に地に悲むも何ぞ能く其素志を貫徹するを得んや。

國家の藩屏强國の利器たる兵士にして身病弱なれば百萬の衆も亦何にかせん。農を問はす商を問はす又工を論せず病痾の爲めに其業に堪ゑずんば何に依て乎國の富を求めん。斯の如くにして國の强盛を望むは猶木に依て魚を求め瓦礫を以て玉樓を望むの類に異なるなからんや。

安政年間初めて虎列刺病の怒濤卷き來るの勢を以て内

地に襲ひ來るや人心恟々薄氷を踏むか如く戰々粟々として恐るゝ事虎狼の如く其襲ふ毎に斃るゝ者數百千是に於てか周章狼狽爲す所を知らす或は神符に托し或は呪咀に依頼し心稍自ら安んず其愚其陋蓋し笑ふべきものゝ如しと雖も人智の發達せざる醫學の幼稚なる當時に於ては又愁眉するに足らざるなり。

今や衛生の道大に開け身躰の虚弱不健なるは日常の攝生其宜敷を得ざる悪疫の猖獗亦衛生の道を輕忽に附するが故のみ之に依て見れは其之を未發に防禦する只衛生の一途あるのみと婦女も其大要を論し童蒙も亦其利害を辨明するに至る嗚呼是れ明治　聖帝の德澤にして醫學界の賜なり吾人は實に大白を擧けて賀すべく祝すへきの現象なりと斷言するに躊躇せざるなり猶望むらくは自愛は國家の强弱に係る事を常に腦裡に銘し自愛自重以て海岳の　聖恩に報し奉らん事を切望に堪えざるなり。

夫れ前述の如く衛生の道大に開け人々空氣家屋の良否衣服食物の適否を喋々すれとも未だ嘗て齒牙の如何を顧みす冷々淡々の下に看過するは抑も如何ぞや。之れ外面の衛生を擬して敢て内面を顧ざるの謗なきを得んや。

夫れ口は消食器の一要關にして即ち生活の門なり故に口腔齒牙に疾病あれは其害引て全身の健康上に障碍を與ふるは理の見易き所なり然るに斯の如く本邦人の齒牙を輕視するは蓋し我國古來の習慣に依て然る乎啻に其發痛する毎に齒科醫の門を叩て以て足れりとするが如きは實に虎病を神符に托し自ら安んずるの輩と其徹を同ふするもの。人々口に衛生を談するの時此陋ある怪むに堪えざるなり是れ恰も根に培ふて其幹に斧を加ふるの類のみ。齒牙の何たるを解せざる何ぞ夫れ斯の如き乎。

抑も普通醫術と齒科醫術との關係たる其間實に一髮を容れず共に俱に相隨伴して發達せざるべからざるは多辨を待たすして明なりと雖も本邦に於ける兩者の間其進歩の度相懸隔ある蓋し依て來る所あり夫れ泰西齒科醫術の初めて本邦に入りしは實に明治初年にして漸々其學進み其術開け遂に今日の狀況を社會に現出するに至れり然れとも星霜茲に二十有餘年普通醫學に比し幼稚なるは又怪むに足らざるなり。加之本邦固有の齒科術たる牽强附會取るべきなく街頭に白刃を閃かすの類のみ此故に本邦人の敢て口腔齒牙の健否に反省する者少

なき亦偶然ならんや是れ常に當局者の焦慮する所にして國家の爲め轉た慨嘆に堪さるなり。以下其攝生法一斑を編し以て世人の注意を促がさんとするの止を得ざるに出づ讀者乞ふ編者意向の何處に存するを知らば一讀の煩を辭する勿れ。』

抑も人齒に二種あり第一期に發生する者を乳齒と名つけ其數二十枚なり素より暫用の者にして一に不久齒或は暫齒の名あり。第二期に發生する者を成齒と名づけ其總數三十二枚なり之れ生存間の使用に供するものにして一に永久齒と謂ふ。

夫れ齒牙は口腔にをいて齒齦上に屏列し顏貌の美を調ゝ言語の調節を補け。人生一日も欠くべからざる食物を咀嚼し以て胃の消化を補助する等其効其用亦偉大ならすや。

乳齒の初めて發生せんとする時は常に多少の發熱を起し其劇症に至ては遂に鬼籍に上る事あり世の慈母たるもの宜しく注意せさるべからす。凡そ乳齒難生時に於る病狀たる輕症の者にあつては口腔發熱して齒齦赤色腫張し或は之に反して鉛白色を呈し固結して唾液を過溢し身躰僅かに不隱の兆あるに過きすと雖も劇症に至て

は之に加るに全身發熱。脈博頗數。呼吸促迫等の諸徴候を呈し不眠之に伴ひ不明の原因に依て俄然號泣するが如き一朝他疾患の伴發するや頗る危險に陷り苦悶の間終に斃るゝに至る豈深く恐れざるべけんや。故に嬰兒の不隱發熱等其歯牙發生に因するを知らは速に歯科醫の門に馳せて其治術を受くべし。若し夫れ徒らに乳房に依て强て其號泣を仰止せんと欲し或は甘味を以て之を制せんとするも之れ只徒勞に屬するのみ。愛兒の苦患幾何そや思はざるべけんや。宜しく躊躇は苦患の爲め益々患兒の身躰に疲勞衰弱を與ふるを了知せば速に其診斷を仰くべし。

右に論述するが如く此時期に於ける注意は最も忽にすべからざるが故に先づ乳歯發生の時期順序を豫め記憶せざるべからず。

通常下歯は上歯に先發する事二三週乃至一二ヶ月とす

甲〜中央前歯（上下各二枚）五ヶ月ヨリ八ヶ月間
〜側前歯（右）同）七ヶ月ヨリ十ヶ月間
乙〜犬歯（右）同）十二ヶ月ヨリ十六ヶ月間
丙〜第一臼歯（右）同）十七ヶ月ヨリ二十ヶ月間
〜第二臼歯（右）同）二十ヶ月ヨリ三十六ヶ月間

右に記載する發生順序は大多數の歯牙に於て平均慨算

せしものなれば一二ヶ月の差異なきを保せず。而して表中明示せしが如く上下各呼に於て四枚の前齒二枚の犬齒四枚の齧齒より組成せらる。即ち甲は咬斷の用に供し乙は裂碎を匠り丙は食物を咀嚼粉碎するの用に供ふ。

凡そ人として貴賤を問はず上下を論ぜず其愛兒の無病健康たるを希はざる者なからんや夫れ然り小兒の身躰をして不恙健康たらしめ以て將來の大務を全ふせしむるは蓋し慈親たる者の最大義務たるは毫も疑を容れず宜しく全力を擧けて其撫育の外他意あるべからざるなり其方法抑如何ぞや。

但し此乳育時期は嬰兒の狀態に依て長短あるべきは論を待たず

本邦人は三四歲に至る迄幼兒に母乳を給與するの常習を有し。寧ろ他に優るものなしと自ら信するが如し

健康なる母乳素より可なりと雖も其乳育の期長きに失するは蓋し誤見の極と謂ふべし。之れ啻に母躰を衰弱せしむるのみならず又愛兒の身躰を虛弱の境堺に陷るゝものなり。此故に大凡十二ヶ月乃至十五ヶ月にして母乳を斷つを以て最良とす。』

若し夫れ母躰虛弱多病にして健良なる乳汁を得る能はざるも敢て顧慮する處なく之を以て兒を育養するものありとせん乎。之れ實に兒躰を衰弱せしめ病痾の種子を

特植するに異らず。斯の如くんは撫育に非すして却て身躰を傷ふもの。痴陋も茲に至て極まれりと謂ふべし。宜しく乳母に托して健乳を給すべきなり。而して乳母たる實に愛兒の成育上至大の關係を有するものなるが故に其撰擇上大なる注意を要し毫も忽にすへからず。就中要件中の最要なる者數項を左に列擧して參覽に供す。

第一　品行整肅ならざるべからず。

第二　苟にも淫猥浮薄なるべからず。

第三　身躰健康ならざるべからず。

第四　遺傳病毒の有無及ひ其系統なるへからず。

牛乳は能く試驗を施して最も健良のものを撰むべし

第五　身躰衣服清潔ならさるべからず。

第七　日常滋養食物を取らざるべからず。

第八　普通の教育を得たるものにして多少の學識なかるべからず。

第九　一意愛撫の情より身を犧牲として煩を避けず累を辭せず能く兒を撫育するものならざるべからす。

右に述ふるが如く嬰兒大凡十二ヶ月乃至十五ヶ月に至れば直に人乳を廢して。新鮮佳良なる牛乳。蒸餅。米粉。麥粉。肉羹汁。雞卵。等を食せしむべし。而して小兒に食を與ふる

には常に一定の時間を定むべきものとす。小兒既に歯牙を生ずれば好んで物を咀嚼せん事を望むものにして其咀嚼作用は歯牙堅硬上大なる利益を有するが故に以上列擧せしが如き固形食物を給すべし。』

之れは歯牙の勞働充血に依りて其健固の度を増加するの性質あるに依る

歯牙は大量の石灰質及ひ少容の有機質より組成せらるゝものにして其酸に遇ふや容易に溶解浸蝕せらる實に酸類は歯牙の一大勁敵なり。夫れ食物の細分子歯間に停滯して時を經る時は酸酵作用を起し歯牙の一大強敵として最も恐るべき酸を釀製し以て歯牙を侵襲す是故に食後には必ず指に白布を纏ひ清水を浸して幼兒の口腔内及び歯牙の内外面を周密に拭淨すべし。小兒稍長ずるには磨歯粉を附して口腔歯牙を刷淨し毎食後には微温湯を以て含嗽せしめ汚敗の粘液食物の滓渣を除き去りて歯牙の健康を全ふするの習慣を養成せしむべし。

温湯中更に重炭酸曹達の如き制酸能力あるも薬品少許を投入して含嗽せしむれは最も可なり

然り而して世人皆思ふらく乳歯は素之れ暫用の歯牙の為めに腐するも永久歯の繼續者あるあり又意に介するに足らんやと之れ實に誤見の甚たしきものにして將來發生すべき成歯に餘害を波及するものたるは言を待たず其抜去時期の如きも只に反省する處なく縱に施術を下

す時は永久齒の整列不正にして錯雜亂生し齒牙の朽傷を媒介するのみならず天然の美容を傷ひ加之言語不明等の不幸を來すべし。戒めさるべけんや。宜しく如斯ものは齒科醫に托して其治術を受くべしと雖も而も日常の注意に依て其不幸を未發に防禦するの勝れるに若かず世の親たる者豈輕忽の下に看過すべけんや。』

乳齒は先に概述せるか如く其造構軟弱なるが故に浸蝕の災を受くるや蓋し成齒の比に非す。小兒五六歳に至れは再生する事なき至貴の永久齒は各顎に各二枚を生ず之れ第一大臼齒と稱するものにして一に六歳臼齒と謂ふ此ものたるや乳齒と其列を齊ふして發生するものなるか故に從て腐蝕の害に罹り易く其造構も他成齒に比し鞏固ならざるを以て健全に保護すへし故に時々幼兒の齒牙を算し二十枚あるは即ち乳齒にして其餘のものは永久齒に屬する第一臼齒なれは保護上の注意を忽にすべからず以下成齒發生の順序を記して以て參考の資に供せん。

第一大臼齒（一に六歳臼齒）　五年乃至六年
中央前齒（一に中前齒中切齒）　六年乃至八年
側前齒（側切齒或は副前齒）　七年乃至九年

第一小臼齒（副臼齒、双峯齒二尖齒等の名あり）　九年乃至十年
第二小臼齒（仝）　十年乃至十二年
犬齒（尖齒、笑齒と云ひ上顎のものを眼齒下顎のものを胃齒と云）　十一年乃至十三年
第二大臼齒（一に十二歲臼齒）　十二年乃至十四年
智齒（第三大臼齒）　十七年乃至二十一年

右の順序を以て成齒相次て發生し乳齒脫落して其地位を讓る。此時期を名けて齠齔期と謂ふ。而して此際に至る迄乳齒を無異健全に保護すべきの必要たるは辨を待たざるなり。

乳齒脫落は交換俗人の常に豫想するが如く只壓力に依て自然に成るものにして齒の一種に非ずと雖も此機を作なす營み用ひなり

智齒は殊に下顎に多し

成齒は其數三十有二枚にして各顎に十六枚を生ず其造構乳齒に比し強固堅牢なるは一目瞭然たり而して其發生時に當り乳齒の如く出齦困難を伴ふ事實に稀有に屬すと雖も智齒出齦の際に於ては屢々見る所なり之れ最後に發生するものなるか故に（發生時期を參照すへし）其位置たる先發臼齒の爲めに占領せられ餘地狹隘なるが爲めか其下顎枝中に發育しつゝある時或原因に依て突然顎の發育停止すれば從て不整の地位に生ずるが如き皆以て劇甚なる疼痛を惹起し顏面腫張發熱し全身の不和牙關緊急を起し開口する事能はず爲めに食物の咀

智齒は生下顎に多し

嚼作用を廢し身躰の衰弱を來すのみならす甚たしきものに至ては遂に釀膿して頰面頤部等に開口泄膿し。顏面に醜痕を殘すに至らば又何に依て乎之を治するを得ん戒心せざるべけんや。

齒牙の世紀を追ふに從て愈々軟弱となり。齒大と顎骨との發育不比例は益々甚だしからんとす故に齒牙の腐蝕。發生困難症。齒列不正等の諸症比々現出せんとするの形勢あるは吾人等の最も注目すべき處にして讀者諸氏の爲め今聊か其理由を略述せんとす。

齒牙は日常の使用法如何に依りて大に堅弱の度を異にす。然り而して未開の時世に於けるや齒牙の健否口腔の攝生等實に一人の反省するものなきに係らず却て齒牙の浸蝕さるゝ事少なく衛生の聲嘖々たる今日に於て其多きを見るは稍々怪むべきか如しと雖も左の數項を熟讀して其疑團を氷解すべし。

諸氏若し疑はゞ數百年前に於ける人骨及び齒牙を以て

夫れ本邦人の如き往古。未開の時代に於けるや軀幹長大骨格健强今世人の比に非ず然るに時世の開明に伴ひ躰軀の萎微縮少しつゝあるは人の熟知せる所にして史籍に照し其實跡燎々たり。其理由蓋し一にして足らずと雖も要するに本邦人の早婚なると。多產なるとは。就中其主

現今の骨格に比較對見せよ必ず現時骨格の萎縮せるを見て其齒大に至ては大差なきを見ん

○[illegible]鉄齒原因大別

甲、先天性[illegible]鉄

乙、乳齒抜去時期の不當

丙、器機的の防碍

丁、顎の發育不充分

戊、齒齦或は顎の疾病

因として數ふべきものたるは毫も疑ふへからず。故に顎骨の如きは此感動に依て全身の躰格に伴て萎縮の發育をなすに係らず齒牙は自己の成形力を以て一定の形狀を形成するか故に顎齒發育の不平均を生ず。

其他錯鉄齒の原因たる頗る多くして指を屈するに遑あらず。錯齒は啻に顔貌を偏惡するのみならず。言語不明に陷り。其浸蝕の難易整列齒牙の比に非ず嗚呼妙齡の處女も一朝錯齒の爲めに其美容を損せは深窓に憂吟するの不幸に遭遇すべし世の父母たるもの深く爰に注意し愛兒をして不幸の病淵に顚せしめず永く明治の聖世に在



其勞働充血の作用たる脚夫の足力強健なる力士の腕力に富饒せる皆以て之を證するに足る況んや勞働者の身躰健康氣力勇壯なるをや

て健康無患の幸福を得せしめよ。

齒列不正に伴ふて爰に説明の勞を取らざるべからざるは往時に比し齒牙の組織軟弱にして益々腐蝕の災害に罹り易き一事是なり。其理由蓋し外ならず夫れ文運駸進事物開明の現時におけるや日常食物の調理法善に過き美に失し齒牙堅硬上媒介者とも謂べき勞動充血不足なると常に甘味を貪り口內唾液を變性し運動不充分の爲め而て胃腑を損する等以て齒牙を浸蝕するの媒となる故に齒牙の疾病は未開人に少なくして却て開化人に多く就中上流社會多中の多たるものなり。嗚呼文明人の得

て免かる能はざる一大不幸なる哉』

齒牙を浸襲する疾患たる頗る多しと雖も就中大多數を占むる者は齲齒即ち齒牙の朽傷なりとす。抑々齒牙は內部に齒髓なる纖維狀軟組織を有し此者たる脉管神經を包藏し齒牙の榮養を司どり兼て英敏の知覺を備ふ。而して其外層は硬質を以て被はる即ち齒髓に次で齒の大部分を構成する象牙質。根部を包む處の白亞質（齒膜之を被ふ）冠部を被覆する琺瑯質にして概言すれは齒牙の外層は石灰質の凝結物たるに外ならず。故に酸類は齒牙の一大勁敵にして其災に遇ふや石灰質は容易に溶解せらるゝに至る而して浸蝕の度たるや酸類の强弱に依りて遲速ありと雖も又齒牙の造構如何に依りて差異あるは論を待たざるなり。

| 齒牙分析表 | |
|---|---|
| 燐酸石灰及弗律阿兒石灰 | 八九八三 |
| 炭酸石灰 | 四三七 |
| 燐酸麻屈涅矢烏母 | 一、三四 |
| 鹽類 | 八八 |
| 軟骨 | 三、三九 |
| 脂肪 | 二〇 |
| 合計 | 100.00 |

右は男齒にして女子の齒牙には其量に少許の差異あり

齒牙の形狀色澤は明かに躰質の良否を表示するものにして之に依て其何質たるを察知する亦難きに非ず。黃色、黃白色、茶褐色等なるは其齒牙概ね强堅にして青白色或は灰白色を呈するは概ね軟弱なりとす。今左に齒牙一萬枚中に於ける齲齒の統計表を掲げ以て一覽に供す。

女子は男子に比し其齒牙軟弱なり

* * * * * * * * * *

齲齒統計表（一萬枚標準）

| 齒名 | 上顎 | 下顎 | 上下合計 |
|---|---|---|---|
| 第一大齲齒 | 千、百十一 一、五四〇 | 千、百十一 一、八一〇 | 万千、百十一 三、三五〇 |
| 第二大齲齒 | 、六九〇 | 一、〇四六 | 一、七三六 |
| 第一小齲齒 | 、九四〇 | 、三七〇 | 一、三一〇 |
| 第二小齲齒 | 、八一〇 | 、五〇〇 | 一、三一〇 |
| 側前齒 | 、七四七 | 、〇三〇 | 、七七七 |
| 中前齒 | 、六一二 | 、〇三〇 | 、六四二 |
| 犬齒 | 、四四五 | 、〇七〇 | 、五一五 |
| 第三大臼齒 | 、二二〇 | 、一四〇 | 、三六〇 |
| 小計 | 六、〇〇四 | 三、九九六 | |
| 合計 | 一〇、〇〇〇 | | 一〇、〇〇〇 |

抑も齒牙の動敵たる酸類は口腔内に於て如何なる方法に依て釀製せらるゝ乎蓋し種々なりと雖も第一食物分子の齒間に停滯して酸酵釀製せらるゝもの第二飲食物に醋酸して酢酸の藏類魚類酢飯梅實其他物等の類第三口内唾液は健全なる体に於ては酸を中和する亞爾加里性なれども一朝發熱諸症に侵さるゝや時に變性して酸性反應を呈し或は其分泌減量して酸性粘液を中和する事能はず齒牙を傷害するに至り其他胃病者の咽逆する酸敗液等第四酸性藥劑を服用するもの是皆齒牙を溶解浸蝕し其然らざる者と雖も多少有害たるを免れず然るに妊婦にあつて

熱湯を飲み直に氷片を噛ふの類

は常に酸味物を嗜好し且つ胎兒の齒牙構成に必要なる含石灰物を攝取する事少なければ從て齒牙頗る軟弱に陷るものなり前述の他過熱后卒然寒冷に遇ひ。胡桃の如き硬固物を裂碎する等齒皮を破烈せしめ或は琺瑯質を損潰するものなれば其有害たるは多辨を待たずして明かなり。春期發動期は蓋し最も齲齒に罹り易すき時期にして之に次くを姙娠時となす。』

腐蝕の先づ琺瑯質を侵襲して象牙質に達するや稍微痛を感じ漸々深部を侵すに從ひて劇痛を發し齒髓を露出するに至れば此知覺英敏なる組織は食物分子軟化牙質

此を放置するの時は遂に齒髓死壞化膿して齒根膜炎を起し或は齒槽膿腫等種々なる病候を現出するに至る

冷熱物等の爲め直接の刺戟を受け益々發痛して堪ゆべからざるに至る。

齒牙の一部分侵蝕せられて一小窩を形成するや其亢進頗る迅速にして僅少の時日を以て齒髓を暴露するに至る就中幼者の齒牙に於て然りとす。之れ口腔内に於て數個の齲齒ある時は常に食物分子を滯在せしめ以て自ら酸を造るべきの器となり益々腐蝕を增劇ならしむる所以なり。而して口腔液を變性し食物の咀嚼不充分なるのみならず齲窩の汚物をして食物に混淆し直に嚥下するか故に胃腑の健康を損ひ、腸に疾病を起し易からしめ呼

氣は惡臭を帶びて近くべからず吸入する處の空氣も亦汚染せられて肺に其餘害を及ぼす夫れ斯の如く全身諸部は其何れに關せす相連累せる事恰も環輪の端なきが如し故に一齒牙の疾患と雖も直に齒科醫の治療を乞ひ決して等閑に附すべからず。

世人の齒科醫の門に來て診を乞ふ者多くは既に其發痛するか爲なりと雖も之れ陋見の甚たしきものにして啻に治療の際長時間を要し幾多の苦痛を發するのみならす預后頗る不良に傾き易し若し夫れ初期なりとせん乎其施術に際し長時間を要せざるのみならず毫も苦患なく其豫后に至ても頗る善良なり。思はさるべけんや。

齲窩充塡の材料たる其數實に顆多にして羅列するに遑あらぜと雖も就中最も多く使用せらるゝ。(1)金屬(2)汞收金(俗銀)に(3)セメント(4)カッタペルチヤ(俗にゴム)の四品に就て略述せん。

一、二の兩物質は共に堅硬なる永久充塡材にして其能く腐蝕を遏止し齒牙の健康を永遠に維持せしむる事を得るものたり。就中第一物質の如き充塡物に必要なる諸多の性質を通有すと雖も憾むらくば三個の欠點あり何ぞや曰く色澤の齒牙に密似せざる事、電氣の良導躰なる事

價額の高貴なる事是なり故に齒牙の狀態に依て使用すべからざる場合ありと雖も良好の充塡材たるは敢て論なし。第二物質は價廉にして其充塡頗る容易なりと雖も時日を經るに從ひ黑變して齒牙を汚染し、加るに凝塊收縮するの短處あるを奈何にせん。素より熟練なる手術者は巧妙なる手腕に依て此欠點を減少せしむれとも金に劣る事萬々なり。第三第四は其質消耗し易きを以て多くは暫間充塡。下脣充塡或は磨刷を受けざる部分に充塡するものとす。甲に利あれは乙に適せず其完全無欠の者なきは頗る遺憾に堪ゑずと雖も蓋し一利一害は數の免れざる所なればなり。

口腔內に異種の金屬あれは必す多少の電氣作用を提起し口腔液を分解し以て酸を釀製し齒牙を蠶蝕し其他諸他の患害を惹起するものなり。例せば銀膏を充塡したる齒牙に金鉤を接着し上齒に銀を埋め對齒に金を充塡する等何れも當局者の禁忌する所なり。

齒牙の脫落する時は容貌上に健康上に幾多の患害を誘起するものにして其前齒を失ふや脣部疲削陷落し外貌を損する事齒齒損失の比に非ず言語は忽ち不明となり快談壯話を辨ずる能はず、呼吸器系統も亦病魔の侵襲を

感受し易きに至る若し夫れ咀嚼齒たらん乎食物の咀嚼不充分にして其結果布て胃腸を害し全身の健康を毀損するに至るべし豈深く戒めさるへけんや。直に義齒を補ふべし。』

入して齒牙の欠損を補ふべし。

義齒の精巧なるものは燦然天工を奪ひ外見天然齒と其判別に苦む。是れ齒科醫特種の妙技にして宜に容貌を改復するのみならず言語咀嚼の兩機を全ふせしめ身躰の健康を整理す義齒の効用豈夫れ偉ならずや。』

義齒は陶製にして其床の材料は通常護謨床、金床、セルロイド床の三種とす

齒石とは齒牙に沈着する一種の土質にして唾液中の沈澱物に外ならず故に唾管開口部即ち下前齒の內面。上臼齒の外面に最も多量なるを認む其色黑色なるあり褐色なるあり。黃色白色等千差萬別なり而して其硬度たる或は硬堅殆んと牙質の如きものあり或は柔軟乳酪の如きあり。齒石は齒牙と直接の患害少小なるか如しと雖も齒齦の健否上重大なる關係を有し齦病多數の原因となる』

齒石分析表

| | |
|---|---|
| 燐酸土類 | 七九、 |
| 唾液素 | 一、 |
| 唾液苔 | 一二、五 |
| 動物質 | 七、五 |
| 合計 | 一〇〇、 |

齒牙に多量の齒石堆積する時は口內惡臭を放ち呼氣は紛々として鼻を撲ち吸氣を以て汚息を肺臟に送り齒齦は深紅色或は紫色に變じ腫脹膨起し僅微の刺戟にも容易に出血し易く惡膿を漏泄し不潔なる唾液は胃に嚥下せられて其健康を敗り齒牙弛緩して遂に脫落するに至

涅齒の起因は漢詳然はしなるも大なるにしてすなはち齒牙の漿を以て鐵を解し鐵を溶製したるものにして外

る宜しく齒科醫に乞て其除去術を受くべし。』

古來本邦婦人既婚者の齒牙を黑染するの風弊あり抑々涅齒の害や齒皮を削耗毀損し齒質を脆弱ならしめ其脫色を厭ふが爲め淨嗽調密ならず從て口內不潔に陷り齒牙に不測の害患を與ふるは爭ふべからざるの事實なり文物開明の今日に至り漸く減少に傾くと雖も未だ廢滅に歸せざるは實に哄嘆に堪へざるなり然れとも蓋し古來の習慣なるか故に一朝一夕にして容易に禁廢を望むことを得んや是れ支那婦人の足を責喻すると歐米婦人の下腹を緊束すると並ひ立つて世界の三大惡習なり乞

日常齒刷子を使用せさる人初めて之を使用する際稍疼痛を感ずるや齒龈を出血する多少も毫も顧慮する處なく直ちに齒龈を損傷し健康なるものに而して二三回の使用を經ば痛苦を感せず

ふ其大害ある所以を了せは速かに全廢し以て衛生の實を全ふし開化の眞相を宜しく世界に誇示せよ。

抑々齒牙に酸類の有害なるは前既に之を詳論せり故に衛生を重んするの士は少くも朝起臥寢の二時には必ず亞爾加里性磨齒粉を齒刷子に附し以て刷淨すべし。

齒刷子は其毛强硬に過ぐべからず又柔軟に失すへからす中硬のものを最良とす。

齒磨粉は最も精良のものを撰まざるへからず。然るに通常坊間に販賣する粗製磨齒粉は多く砂質を混合せるにも係らず世人の歡んて之を使用するは何ぞや。之れ其克

齒磨粉に換りなるに精瓦石鹸を代用するも可なりと雖も齒齦を退却せしめざるの欠點あり

ざるに至るべし

く齒牙を白色ならしむるの故を以てなりと嗚呼不知不識の間に齒皮を削耗するを悟らす啻に其研磨力の強劇なるを以て自ら足れりとす誤れりと謂ふべし。如斯して長時日に渉らん乎、齒牙は即ち消耗して畸形を呈し次て發痛し齒齦を傷け或は發炎せしめ不測の害疾相次て至らん謂はずや檐滴も永日遂に磐岩を穿と況んや砂質を以て齒牙を磨すをや。宜敷齒磨粉の精粗、如何は衛生家の注意して忽にすべからざる所以なり。

齒刷子の使用法は齒の外面は横に内面は縱に精密淨刷すべし殊に臥寢の際には最も注意して口腔を清潔ならしむべし是れ睡眠間は唇頰舌の運動全たく絶止すれば汚物滓渣の沈着浸害する事晝間の比に非ざればなり』

毎食後には又必ず微温湯を以て能く含嗽すべし。食後小楊子を使用するは頗る賞賛すべきの美事なり。要するに勤めて食物分子を齒間に停滯せしめざるに注意すべし之れ一定時間を經れば酸を釀製するを以てなり。』而して本邦製の小楊子は木片を以て製したるものなれば稍もすれば其碎片齒間に停留し齒石沈着の核となる故に羽莖を用ひて製したるものを最良とす。間々金屬の楊子を使用する者あれども其質堅きに過くれは有害にして却

て木製の害少なきに若かざるなり』

齒牙接着面等に齲窩を生するも自ら認識するは頗る難事たるのみならず到底なし得べからず宜しく疾病の有無に關せず毎年三四回は必ず齒科醫に托して齒石の除去及ひ口腔の診査を受くべきものとす。

本編元より數頁の一小冊能く齒牙攝生法を詳述するを得ざるも編中簡にして明ならん事を務むと雖も意義或は通徹せず隔靴の憾なきを保せず然れども讀者其一斑を了するあらば是れ編者の本懷とする所なり

齒牙攝生法一斑

明治二十八年一月十四日印刷
明治二十八年一月十四日發行

著者兼發行人　東京京橋區山城町三番地　瓜生源太郎

印刷人　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地　佐久間衡治

印刷所　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地　株式會社秀英舍

治療時間廣告

瓜生齒科醫院

時間ヲ改正シ從前ノ治療時ハ毎日午前八時リヨ午后五時マテ專ラ治療ニ從事シ熱心ニ業務ヲ執リ助手ニ一任セス自ラ最モ懇切ニ治術ノ完全ヲ期シ新式ノ施術ヲナス但急症ハ時間外ト雖モ治療ノ請ニ應スベシ

東京市京橋區山城町三番地

齒科醫士　瓜生源太郎

71
277

71
277